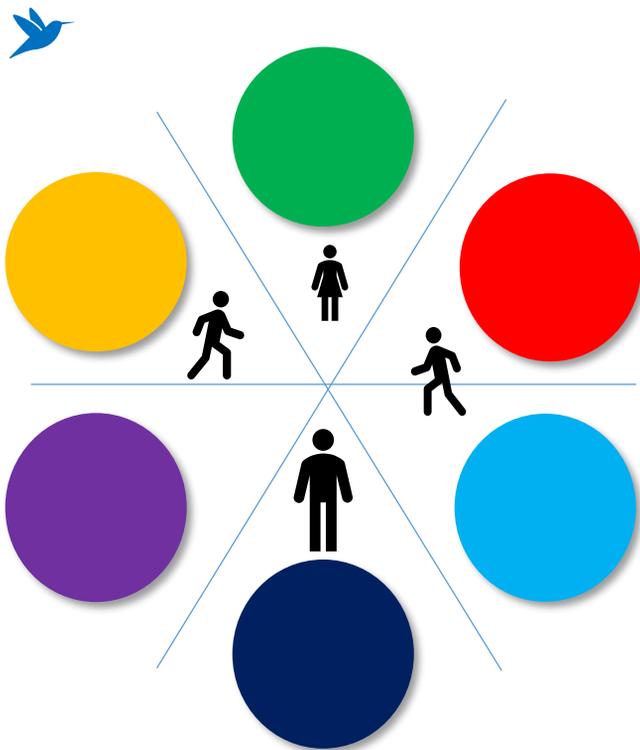


# 銀座の時層と 来街空間



デジタルにアナログに。街を楽しみ、街に学ぶ。  
『ハイライフ的銀座の歩き方』（その1）

1. 「銀座の時層と来街空間」（序）アプローチ……………P 1
  2. 銀座・基本情報……………P 2
  3. 銀座を訪れる人の現在（国内在住者）……………P 5
  4. 「銀座の時層」を読み解く……………P 7
- 🔍 今号の銀座・今号の時層……………P 9

執筆  
公益財団法人ハイライフ研究所  
主任研究員 福興宜治

令和元年6月作成

## 1. 「銀座の時層と来街空間」(序)アプローチ

「高級」「上質」「大人」「お洒落」。多くの人々が「銀座」に抱く暗黙の了解ともいえるイメージです。実際、街を歩けば高級ブランドショップや上質なレストラン、お洒落な街並みが目にとまります。そして、過去から今日に至るまで「銀座」には多くの人が訪れ、賑わいを醸しだしています。

「谷中銀座」「戸越銀座」、各地にある商店街の名前でもみる「銀座」は、「高級」というよりは、この「賑わい」にあやかっただけでしょう。銀座には人をひきつけてやまない魅力があります。

銀座という『空間』、銀座に積み重なる『時間』、銀座を訪れる『人間』……このコラムは「銀座という街の魅力の源泉」に様々な角度から迫るとともに、人々が人生の楽しみのひとつとして「街を歩き、街を楽しみ、街に学ぶ」ための一助ともなることを目指してまいります。いわば「ハイライフ的・銀座の歩き方」連載コラムです。

### 序「街」を歩くということ

「表通り」があり「裏通り」がある。

「横丁」があり「路地」がある。

昔の建築物があり、未来を予見する  
タテモノがある。風景に身を任せ、  
あるいは目標に向かって歩く。

気ままに歩いたとしても

それは選択の連続だ。選ばなかった道の  
向こう側には何があるのか。

何気なく見過ごしてきたものの中に、  
人の営みの歴史を見つけたとき

自らのこれまで歩んだ足跡と、  
前に広がる明日（ミライ）の光景に、  
人は、いつのまにか思いを馳せる。

街を歩くことは人生に似ている。

そして銀座が語りかけることも。



### <アプローチ>

以下の調査方法、構成のもとに各回考察を加えてまいります。

#### ●銀座を訪れる人の現在をデジタルに知る。

ハイライフ研究所が「銀座研究」の一環として実施した「銀座来街者の行動特性と属性分析」の一部を取り上げ、考察を加えます。具体的には「モバイル空間統計（NTTドコモ）」を活用し「銀座来街者の動線把握」と「追跡アンケート」結果から銀座を訪れる人の現在をみます。「銀座来街者の動線把握」は、銀座を中心とした地域を約250mメッシュで区切った街区の回遊パターンを分析したものです。

#### ●銀座を歩き気付きの種をアナログに収集する。

テーマ毎のフィールドを実際に歩き「銀座の魅力」を構成する要素をみつけ記録し考察します。いわば虫の視点で「銀座ならではの」探します。

#### ●銀座の歴史を知り「銀座の時層」を読み解く。

1と2を空間軸アプローチから導き出したテーマをもとに、ここではその時間軸を追いかけながら銀座の魅力を掘り下げます。

#### ●街の動きから特定の世代と街の関係を想う。

例えば「日本初、銀座で歩行者天国が始まったとき団塊の世代は20代前半だった」というように世代によりエポックな街の変化は異なります。テーマに即して特定の世代を取り上げ年表を辿りながら「街と人の関係」を推量します。

以上のアプローチを織り交ぜながら「銀座という街の魅力の源泉」を探ってまいります。



## 2. 銀座・基本情報①こんな場所

はじめに「銀座」は何処にあるのか、基本情報を示します。「友をみればその人がわかる」といわれることがあります。街も同じではないでしょうか。そして「友」は「隣人」に置き換えられるとすると、町の場合は「隣町」ということとなります。ここでは行政区分に即した町に限らず「周囲の場所＝隣町」として見るとともに、「住む人」「行き来する人」の数なども見ていきます。読む「街歩き」の第一歩です。

### <銀座・基本情報>

#### 1 場所

住所は東京都中央区銀座1～8丁目  
方角別の主な近隣エリアは下記の通り。

北西	有楽町、皇居
西	日比谷、内幸町、霞ヶ関（官庁街）
南西	新橋
南	浜離宮恩賜庭園
南東	築地、勝鬨、豊洲
東	新富町、佃島、月島
北東	京橋、日本橋 東京証券取引所
北	東京駅、丸の内、八重洲

#### 2 人口・駅乗降客数

①銀座1丁目～8丁目世帯数・人口  
（住民基本台帳 令和元年5月1日現在）

世帯数 2537 人口 3627人

②近隣駅別一日平均乗降客数（平成29年度）

東京メトロ 銀座駅	266,574人
東京メトロ銀座一丁目駅	38,754
東京メトロ東銀座駅	90,621
都営地下鉄東銀座駅	83,607
（小計	479,556）
東京メトロ有楽町駅	174,378
東京メトロ日比谷駅	105,614
都営地下鉄日比谷駅	86,185
JR東日本有楽町駅	169,943
（小計	536,120）
合計	1,015,676人

#### 3 商業（銀座1～8丁目小売業事業所数等）

（商業統計 平成26年）

小売業事業所総数	787（法人735 個人52）
従業者数	11,266
年間商品販売額	567,521百万円
売場面積	194,864㎡

#### 日本文化・行政・金融・商業・ビジネス・交通

#### 「日本の真ん中」に囲まれ特別な場所に位置する銀座

「日本橋」を起点とした旧東海道の一部でもある銀座中央通りはおおよそ北東から南西へと通ずる道です。四丁目交差点を中心として北東から時計回りにいくつかの隣町の横顔をみていきましょう。

北東の日本橋は江戸商業の中心地でした。今日においては有数のビジネス街を形成し、金融の中心地、東京証券取引所も界隈にあります。南東は「築地」です。昨年まで日本の台所といわれた築地市場がありました。新市場、豊洲はその先です。勝鬨方面には近年、高層マンションが建設され中央区の人口増加の要因となっています。南西には「サラリーマンの聖地」新橋があります。そして西は日比谷公園と映画の街「日比谷」、帝国ホテルのある「内幸町」、その先は日本の行政の中心地として省庁が並び「霞ヶ関」です。そして北西には「有楽町」。その先には「皇居」があります。北へ向うと日本橋と並びビジネス街丸の内、そして公共交通機関・鉄道の起点ともいえる「東京駅」があります。

いわば日本の文化、行政、金融、ビジネス、交通を語る際に見逃せない「日本の真ん中」に囲まれた特別な場所に位置しているといえます。

このような場所や街はどこも歩ける距離の中にあるとともに坂道の少ないほぼフラットな道程で繋がっています。また歩いてみて気付かされるのが銀座と他の街の賑わいがシームレスに繋がっている事です。「どこでもドア」の趣きすら感じさせます。ちなみに四丁目「和光」を起点としたおおよその徒歩時間例を挙げてみましょう。移動ならちょっと遠く感じる所もありますが散歩と考えると程よい距離といえます。

日本橋駅21分・皇居前広場約20分・法務省約17分  
東京駅八重洲口約18分・築地場外市場約14分・新橋駅西口広場 14分・日比谷ゴジラスクエア約7分・有楽町駅約6分（「google map」検索より）

#### 住民は少なく訪れる人達が多い街

銀座（一丁目から八丁目）の人口 3627人に対して、「銀座」と名の付く駅の一日平均乗降客数は約48万人。また隣接し、商圈としてひとつとして語られる事の多い「有楽町・日比谷」と名の付く駅では約54万人となります。買物、旅行、娯楽目的の来街者、仕事目的の来街者、商業施設従業員を含む通勤者など多くの人が訪れ、街の風景を構成しています。近年では訪日外国人旅行者の姿も目立ちます。



## 2. 銀座・基本情報②こんな生い立ち

街の「現在」を知る上では「過去」の歴史を知ることでも重要です。「時の積み重なる地層」の断面を「歴史」としてみると、ふだん見慣れた風景も異なる光を放ちます。ここでは導入としてその概略をかなりコンパクトにまとめてみました。街並みの魅力、伝統、モダンな気風がどこからきたのか、変わりながらも変わらない銀座の「ならでは」は何なのかの一端を、下記の数行からでも垣間見ることができます。

### 4 歴史

#### 江戸時代

丸の内から日比谷一帯は海（日比谷入江）。今の銀座はその東、砂州の半島、江戸前島に位置。

1603年、江戸幕府誕生に伴い江戸の街づくりが始まり、町人地として整備が行われ、銀貨鑄造、銀の管理を行う「銀座」を駿府からこの地に1612年、移転。1800年には蛸殻町へ移るがその名が今に生きる。町人地として整備した際の街区割りが今の街の原型に。軸となった東海道が今の銀座中央通り。銀座は職人の町、商売の町、能役者と芸者の集う町、芝居小屋、狩野画塾のある町と様々な顔を見せます。

#### 明治・大正時代

明治維新まもない1872年、銀座は大火に見舞われ不燃性家屋の建築が計画され煉瓦街として再生します。銀座通りの道幅拡大、車道歩道分離が今の街の姿につながります。西欧風の街並み、西洋からの輸入商品を取り扱う店、新聞社の進出、文化人の集うカフェなど時代の先端をゆく街が形成されてゆきます。その後、1923年関東大震災によって煉瓦街は消失します。

#### 昭和初期

震災後、銀座の商店は復興に動きます。東京市の復興計画により晴海通りが広がり昭和通りが建設されます。松坂屋、松屋と百貨店が進出、阪急により日比谷に映画、劇場街が開発、銀座にはカフェやバーがでさやかな夜の街を形成します。流行の先端を行くモボモガが通りを歩きます。やがて日本は戦争へと向かいネオンの灯も消えます。震災で壊滅した日本橋魚河岸に変わり1935年、築地市場が開設されます。

#### 昭和戦後期

戦後の復興期を迎え銀座は賑わいを取り戻します。1964年東京オリンピックに合わせ都市インフラ整備の一環から銀座を囲む掘割りの三十間堀川、旧外堀、京橋川などが埋め立てられます。1964年当時はみゆき族が街を闊歩、「銀座の恋の物語」など銀座を舞台にした映画も話題になります。1970年には日本初の歩行者天国が始まります。

#### 平成期

1980年代後半のバブル景気で銀座の地価は高騰します。バブル崩壊後、百貨店が低迷する一方で銀座には海外の高級ブランド旗艦店が立ち並びます。商業施設も新旧交代、周辺地域の再開発、築地市場移転などの波も訪れます。訪日観光客が3千万人を超える今日、銀座にも多くの外国人旅行者が訪れています。



銀座の時層のキーワード



#### 江戸時代

「銀座」地名の由来。江戸幕府がこの地に銀貨幣鑄造の役所を設置（現在の銀座2丁目）。町名は新町替町と称し、銀座は通称でした。明治2年に町名として公示されました（写真1）。

「町人地」城下町建設の一環で丸の内、日比谷、霞ヶ関一帯は大名屋敷の武家地として開発。銀座は日本橋に遅れて数十年後、町人地として開発されました。武家地の街区割りが120間四方なのに対し銀座は60間四方（約120メートル）で構成され、街区の特徴は今の街並みにも反映されています（写真2）。

#### 明治・大正時代

「煉瓦街」外国人お抱え技術者指導のもと英国ジョージアン洋式の小割された煉瓦家屋を連続的に並べ（連屋形式）、道路を拡幅し街路樹や街灯を整備、統一感のある「西洋風街並み」を生み出しました（写真3）。横浜と新橋をつなぐ鉄道の開通、新橋ステーション駅前商店街ともいえる銀座の地の利もあり、輸入商品を取り扱う商人達が集まりました。

「創業」この時期に銀座発祥の今に生きる「老舗」が多く創業しています。従来は京都からの進出や日本橋など他からの移転組が目立っていました（写真4）。

#### 昭和初期

「百貨店」震災後まもない大正14年に開業した「松坂屋」は、従来「下足預かり」だった慣例をやめ「全館土足入場」の百貨店として登場しました。動物園を併設するなど当時、銀座の百貨店は消費の新しいスタイルを次々と提案し人々を魅了しました（写真5）。

「築地市場」関西割烹の要素を取り入れた料理店、江戸以来の寿司、天麩羅店の出店などが進む中、近くの築地市場開設は「銀座の食」の洗練を促す（写真6）。

#### 昭和戦後期

「若者文化」みゆき族、アイビールックと街を若者文化が彩りました。1971年には銀座にマクドナルド1号店開店。食のスタイルに新たな風を吹かせます（写真7）。

#### 平成期

「新しい老舗」金融不況後の銀行跡地などにフランス、イタリアなどで19世紀から20世紀初頭に創業した高級ブランドが銀座に続けて出店します。訪日観光客増加も含め新たな国際化の波が街を彩ります（写真8）。



写真1 「銀座発祥の地 銀座役所跡」 史跡（銀座2丁目）



写真5 「大正14年開店の松屋銀座・現在の店舗」  
（銀座3丁目）

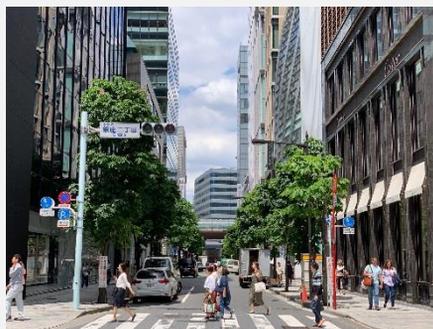


写真2 「銀座通りを軸に街区を分ける通りの一つである  
銀座マロニエ通り」（銀座1・2丁目）



写真6 「昭和10年築地市場開場の年に創業した寿司の  
銀座久兵衛本店」（銀座8丁目）



写真3 「金春通り煉瓦遺構の碑」 史跡（銀座8丁目）



写真7 「昭和46年に1号店を開店したマクドナルドが  
あった銀座三越の現在」（銀座4丁目）



写真4 「明治5年処方調剤薬局として開業した資生堂・  
現在の本社」（銀座7丁目）



写真8 「シャネル、カルティエ。ブルガリ、ルイヴィトンが壁面に映りこむ光景」（銀座2・3丁目）

### 3. 銀座を訪れる人の現在(国内在住者)

#### ①位置情報データの活用・・・調査方法

この項では、街を構成する要素「空間」「時間（歴史・時層）」「人間」のうち「人間」の動きに注目していきます。街の滞在者は①居住者②勤務者③（国内在住）来街者、で構成されます。今回は滞在者全体を把握し、2回目からは「来街者」にフォーカスしてその動きを見ていきます。街歩きの視点でその意味を捉えると隣を歩く人も一つの風景、そして街の雰囲気醸し出す要素の一つです。

##### ○調査について

ここでは、ハイライフ研究所が「銀座研究」の一環として実施した調査「銀座来街者の行動特性と属性分析」の結果の一部を取り上げ、考察を加えます。具体的には「モバイル空間統計（NTTドコモ）」を活用し「銀座来街者の動線把握」と「追跡アンケート」結果から銀座を訪れる人の現在をみます。銀座を中心とした地域を約250mメッシュで区切った13街区を対象地域とし、比較対象のため一部、新宿でも同様の調査を行っています。

##### ●NTTドコモ「モバイル空間統計」

ドコモ携帯電話の基地局情報を利用し携帯電話の台数を集計し地域ごとのドコモの普及率を加味することで人口を推計する仕組み。性別、年齢、居住エリアなどの切り口で人々の移動や時間帯ごとの変化を把握できる（国内居住者約76百万台からの情報）。同意を得た会員を対象にしたweb調査も別途ココリサで行える。「di-PiNK」はインテージが「モバイル空間統計」と同社のリサーチデータを統合し分析を加えた調査手法。

<国内居住者全体のデータソース規模感>

- ①モバイル空間統計 総計7,500万台より法人契約及びMVNO契約除く台数（契約者属性 性 年代 居住地）
- ②di-PiNK DMP（特約位置情報許諾者）約2,200万人（行動ログ位置情報 シオセグメント母体）
- ③ココリサ アンケートモニター（約300万人）

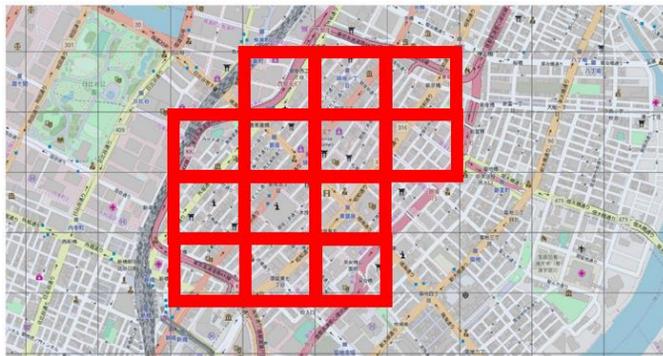
##### ●「銀座研究」での調査仕様

調査手法 a. モバイル空間統計（対象15～79歳男女） b.di-PiNK（同左） c. ココリサ（15～69歳男女）  
 対象地区 銀座250mメッシュ×13エリア（比較対象として新宿でも同様に実施）  
 対象期間 2018/5/7-31 時間区分24時間 曜日・時間別データは曜日別平均 ココリサは2018/7/27-8/1  
 分析内容 滞在者ボリュームと滞在者構成(a)来街者の属性分析(b)来街者の周遊分析(b)（2018/5/12-27）  
 来街者の銀座に対する意識行動(c)n500

対象エリア

銀座

250mメッシュ  
×13エリア

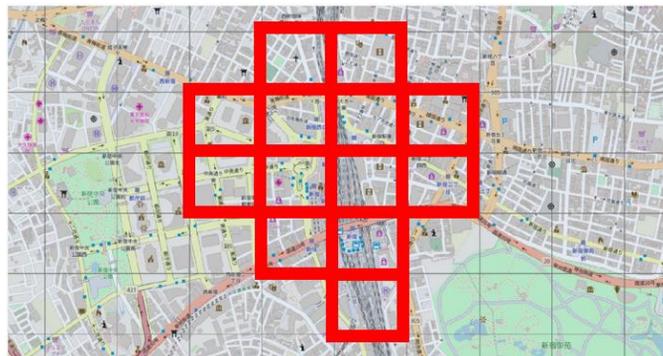


© OpenStreetMap contributors

比較対象  
エリア

新宿

250mメッシュ  
×13エリア

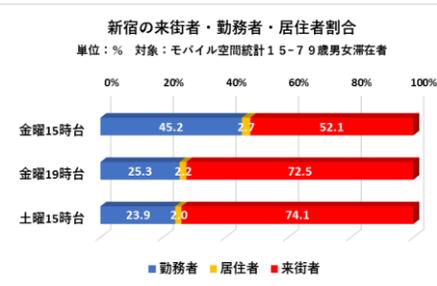
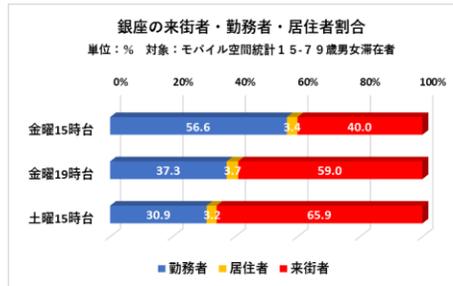
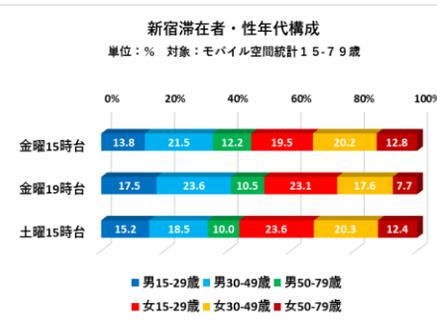
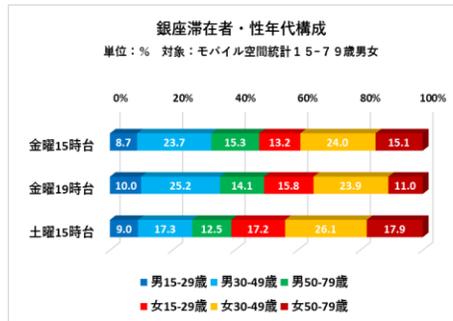
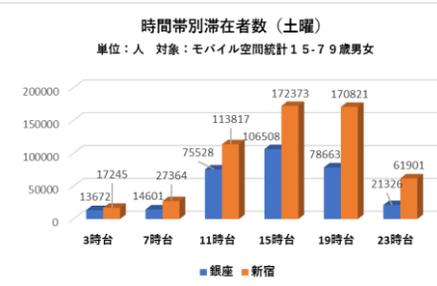
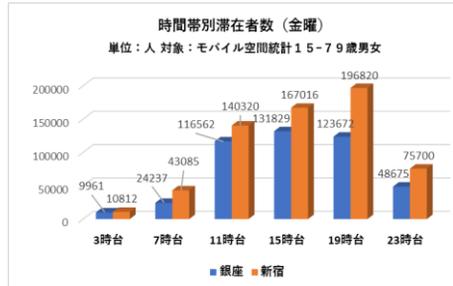


© OpenStreetMap contributors

### 3. 銀座を訪れる人の現在(国内在住者)

#### ②「いつ、誰が、何処からきて街で過ごしているのだろう」

銀座の調査対象エリアの滞在者（居住者+勤務者+国内在住来街者）の特徴を、もうひとつの東京を代表する商業地域である新宿エリアの滞在者と対比しながらみていきましょう。



■銀座滞在者・居住市区ランキング

	銀座		
	①金15時	②金19時	②-①
中央区※	6403	7871	1468
世田谷区	5931	5464	-467
江東区*	4980	5371	391
大田区	4335	4158	-177
江戸川区	3825	3480	-345
杉並区	3654	3392	-262
足立区	3443	3045	-398
港区*	3435	4357	922
練馬区	3312	2880	-432
品川区	3187	3258	71
板橋区	2848	2635	-213
市川市	2715	2555	-160
葛飾区	2578	2349	-229
目黒区	2501	2509	8
墨田区*	2312	2371	59
上位合計	55459	55695	236

対象：モバイル空間統計15-79歳滞在者  
銀座・新宿共に上位にランクした居住市区

■新宿滞在者・居住市区ランキング

	新宿		
	①金15時	②金19時	②-①
新宿区※	10536	12797	2261
世田谷区	9625	11947	2322
杉並区	9489	11869	2380
中野区*	7539	9425	1886
練馬区	7185	8761	1576
渋谷区*	4684	5485	801
板橋区	3812	4366	554
調布市	3070	3953	883
豊島区*	3043	3635	592
江戸川区	2801	3100	299
八王子市	2636	3296	660
北区	2548	3112	564
大田区	2486	2785	299
川口市	2259	2540	281
江東区	2217	2489	272
上位合計	73930	89560	15630

対象：モバイル空間統計15-79歳滞在者  
※※ ※所市区 \*隣接区

#### 1. 時間別滞在者数

曜日×時間でみたとき銀座で最も滞在者人口が多いのは「金曜15時台」です。同時間帯には約13万人が滞在しています。金曜の動きを4時間単位で捉えると、人口は7時頃から立ち上がり11時から19時の間がヤマとなり以後、減ります。新宿の人口ピークは「金曜19時台」で約20万人が滞在、銀座に比べ夜型です。新宿は金曜と土曜の人口差が少ないのに対して銀座は土曜の人口が全般に減ります。銀座は週末の方がゆったりと歩けるかもしれません。

#### 2. 性年代構成

3つの曜日×時間で二つの街を比べました。金曜日の男女比は銀座も新宿もほぼ半々。土曜15時は特に銀座で男性比率が落ちます。平日の仕事に従事する人が抜けることも一因と思われる。年代構成をみると3・40代が最も多くを占めるのは共通ですが、新宿は20代以下の若者層が多く、銀座は50代以上が多くなっておりその差は明らかです。金土曜15時台の銀座は50代以上男女が3割を占めます。新宿の金曜19時台は20代以下男女が4割を占めます。二つの街を対比したとき、銀座は昼の大人の街ということになります。

#### 3. 来街者・勤務者・居住者

銀座の金曜15時は地域内勤務者が6割近くを占めます。新宿は半数を下回ります。銀座は仕事をする人の街でもあります。商業、飲食業の従業員はここに含まれます。金曜19時と土曜15時は来街者が6割前後、ここには買物や食事等レジャー目的の層が多く含まれると想像できます。

#### 4. 居住市区

左の表ではの滞在者の居住する上位15市区の金曜時間別滞在人口を列記しました。銀座、新宿ともこの15地区で全体の4割を占めます。新宿は15時から19時にかけて上位すべての市区在住者数が増えるのに対して銀座は中央区、港区、江東区と近隣在住者のみが増えます。近隣の人が落ち着いた夜を過ごす、もうひとつの顔があるのかも知れません。

## 4. 「銀座の時層」を読み解く

### ①銀座の街並みを眺める

この項では実際に銀座の街を歩きながら得た実感や街の風景が語りかけるものに注目し、銀座に堆積する時間の層（時層）を文献などに導かれながら追いかけてみたいと思います。



写真1 銀座マロニエ通りの四つ角



写真2 銀座四丁目交差点



写真3 外堀通りから晴海通りを見る



写真4 銀座通りから七丁目街区を見る



写真5 銀座一丁目から銀座通りを見る



写真6 銀座八丁目から銀座通りを見る

#### 1. 銀座通りを歩く

銀座という街の軸にあたるのが銀座通りです。銀座通りは、そのほぼ北東の日本橋を基点とした東海道の一部を構成しています。隣接する京橋との境側が銀座一丁目、新橋の側が八丁目となります。

端から端まで約1.1kmという距離は、時速4.2km（分速70m）で歩いて約15分、風景を楽しみながらゆっくり歩いても30分という街歩きには程よい距離です。アプリで簡易に標高を確認すると銀座一丁目の辺りは3.3m、八丁目は4.3mと約1mの差があるようですが体感としては平らな道が続いているという印象を持ちます。ちなみに丸の内から日比谷の辺りはかつて日比谷入江と呼ばれる海であり、その東側にある半島状の江戸前島に現在の銀座は位置していました。日比谷交差点の標高は2mと日比谷周辺の標高はやや銀座より低くなっています。

心地よく歩ける街の程よい大きさとまっすぐ延びた平らな道は銀座の魅力の一つといえます。

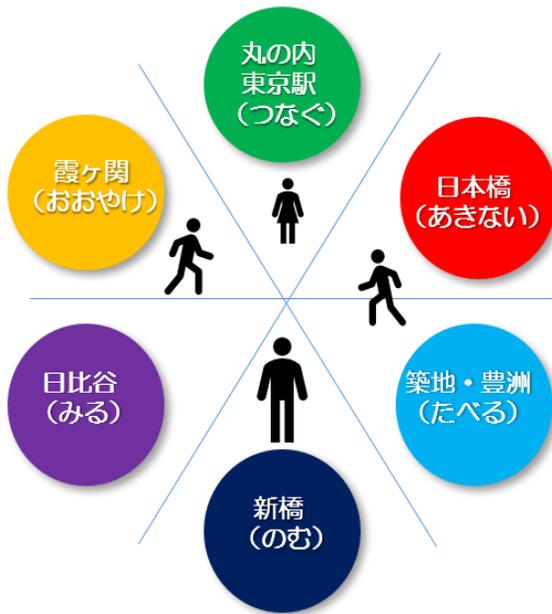
#### 2. 銀座通りの街並みを眺める

洒落た陳列のショーウィンドウを眺めながら歩いていると改めて気がつくことがあります。一丁目と二丁目は銀座柳通りで区切られます。二丁目と三丁目は銀座マロニエ通りで区切られます。銀座通りにはその区切り毎に信号があり、晴海通りを越えて最後の八丁目までそれは「一定のリズム」を刻むかのように四角い区画が続きます。街は一定のルールによって区切られている様です。もうひとつ気がつくことがあります。銀座通りに面して間口が区画のほとんどを占める百貨店や商業施設がある一方、中規模の間口を持つ建物や鉛筆のような細い建物に店を構える商店があるなど「ふぞろいな間口」の存在です。

「一定のリズムとふぞろいな間口」は街並みに表情の豊かさを与える効果を醸し出し銀座の魅力構成する要素となっていると思えます。



## 🔍 今月の銀座



表紙に掲げたシンボルは、6つの円に「銀座の多彩な魅力」3つの線の交差に「銀座の空間と時間のつながり」、4人のヒトに行き交う人々の営みをこめました。

毎回、ひとつのテーマで魅力を構成する要素をピックアップいたします。今回は「よき隣人たち、しかも一流」です。日本橋は陸路と水運の利もあり江戸最大の商業地でした。そして今もビジネスの中心であり続けています。築地から豊洲へとバトンは渡されましたが築地に市場ができたことで銀座の食は進化しました。サラリーマンの聖地、新橋の酒場は日本の活力を夜毎、生み出しています。日比谷は「映画・演劇」のメッカ、霞ヶ関は日本を良くする使命をもった行政の中心、東京駅は鉄道網で日本を繋ぐ要の場所です。

みんなそれぞれにちゃんとしてる。日本を代表する顔がある。そんな隣人との付き合いも銀座という人柄（街柄）を育てているのでしょう。

## 🔍 今月の時層（年表）

毎回ひとつのテーマにちなんだ年表を掲載します。第一回は銀座の始まる江戸初期を中心とした17世紀頃の日本と銀座の動きを紹介します。銀座の歴史を刻む老舗の創業も情報に盛り込みました。「銀座の時層」をお楽しみ下さい。

注：①から⑧の丸数字は関連する銀座の丁目

時代	年	出来事（時代背景）		銀座の動き	
		政治・経済・社会	文化・芸術・街の動き	都市計画・交通・周辺地区	商業・飲食業・産業・建物・文化・流行
室町時代	1336-1573	足利尊氏が室町幕府開府	金閣寺・能楽・御伽草子・水墨画・幽玄		
室町・貞和	1349年				「塩瀬総本家」奈良で創業（現明石町）
安土桃山	1573-1603	豊臣秀吉が天下統一 関が原の戦い	桃山建築（姫路城）・襖絵屏風・茶の湯	銀座は日比谷入江の東側「江戸前島」に位置	
安土・天正	年間				香の「香十」創業 現銀座本店⑤
江戸時代	1603-1868	江戸幕府は徳川家康から慶喜まで続く		江戸は世界有数の人口を誇る都市となる	1612年から1800年まで銀座役所が置かれる
江戸・慶長	1603年	江戸幕府開府	出雲の阿国 京都で歌舞伎踊初演	第一回天下普請で日本橋・京橋地区街並整備	
江戸・慶長	1604年	日本橋を基点として五街道整備に着手		「日本橋」建設（1603年）	
江戸・慶長	1612年	第二回天下普請		「銀座の街」の本格的な開発整備始まる	（「銀座」という通称が今に残る）
				駿府の銀貨鋳造所（銀座）を新両替町に移転	→（現在の銀座2丁目）
江戸・元和	1617年	日光東照宮社殿竣工	吉原遊郭の開設許可		和菓子「萬年堂」京都創業1869年八重洲⑧
江戸・嘉永	1624年		猿若中村勘三郎、中橋に猿若中村座旗揚	（「江戸歌舞伎発祥の地碑」は京橋にある）	
江戸・寛永	1628年	1635年 参勤交代の制	（1629 女舞・女歌舞伎の禁止）	日比谷入江の住人、銀座地区外堀川へ移住	
江戸・明暦	1657年	明暦の大火	江戸市街の多くを消失	明暦の大火で江戸城本丸・二の丸消失	
江戸・寛文	1663年	武家諸法度改定	江戸市中の花火禁止		京都寺町本能寺門前で「鳩居堂」創業⑤
江戸・延宝	1675年				「玉屋」創業（眼鏡・現銀座ASビル）③
江戸・元禄	1700年				「丸八（薬店）」創業（現松沢ビル）③

### 引用文献

岡本哲志『銀座四百年 都市空間の歴史』第一章P18（講談社 選書メチエ 2006年）

### 参考文献

岡本哲志『江戸→TOKYO なりたちの教科書2 丸の内・銀座・神楽坂から東京を解剖する』（淡交社 2018年）

岡本哲志『銀座を歩く 四百年の歴史体験』（講談社文庫 2017年）

鷹野晃『浮世絵と写真で歩く江戸東京散歩』（角川書店 2019年）

今和次郎『考現学入門』（筑摩書房 編者 藤森照信 ちくま文庫 版 1987年）

江戸風土研究会『地図で読み解く江戸・東京 江戸の暮らしが見えてくる』（技術評論社 監修 津川康雄 2015年）

参考ウェブサイト

一般社団法人銀座インフォメーションマネジメント「銀座公式ウェブサイト『GINZA OFFICIAL』